

南インド半乾燥地帯における農村＝都市人口移動の動態と構造の解明

平成19年編入
派遣先国：インド国
佐藤 慶子

キーワード：離村世帯，非農業就業，ホワイトカラー，送金，高等教育費用

対象とする問題の概要

本研究は、南インド半乾燥地帯における農村住民が、どのようなプロセスを経て都市へと流出（移動）しているのかを明らかにすることを目的としている。主な方法は、都市への流出世帯が多く見られる1つの村における全160世帯を対象としたインタビューおよび参与観察である。調査村はタミルナードゥ州マドゥライ県にあり、2007年から現在まで、村の社会経済変容を掴むための一連の滞在型調査を実施している。人口センサスのデータ¹⁾によると、同村では、2001年の人口は1981年時点より1割も減少している。同村では、永年、灌漑用溜池を水源とする水稻作や、天水畑での雑穀、豆類、棉の作付など、労働集約的な農業がみられてきたが、近年、特に1980年代以降、非農業部門への労働力移動とそれに伴う農業労働実質賃金の上昇が見られ、またごく最近ではコンバインハーベスターが導入されており、農作業の省力化や小規模多角化経営の展開が見られる。

研究の目的

これまでの調査から、離村は上層農世帯から順に生じており、子供の高等教育機関への進学や都市部での安定した高給専門職（ホワイトカラー職）への就職を契機に、一家総出で離村し、その後、親世代は子供の家と村に残した家を行ったり来たりして生活する事がわかっている。また、都市へ移動し非農業就業した者の中には、金貸しとして出身村の者に融資を行ったり、親類の子弟に対し大学などの高等教育費用を肩代わりするなど、資金面で村の生活を支えたりする者もいる。このような既に離村した世帯が出身集落の住民に対して果たしている役割（例えば、送金や就職の斡旋、ネットワークの拡大）をより詳細に観察し、村に残った世帯と離村世帯との関係およびその経済階層別の違いを明らかにすることが、今回の調査の第1の目的であった。第2の目的は、中層農世帯で非農業就業者が家族にいない場合、ホワイトカラー就業のために不可欠な大学への進学に要する高価な学費をどのようにまかなっているかを明らかにすることであった。

フィールドワークから得られた知見について

本派遣は2009年7月8日～10月4日までであり、上記課題についての現地調査を行った。その途中、同州中部にあるポンディシェリー（連邦直轄領）に滞在し、フランス系の社会科学研究所（Institute of Francaise, Pondicherry）において文献調査を行った。そこで得られた文献レビューは、その後、自分の調査地に戻り調査を再開させた際、比較検討材料として大いに役立った。

今回の調査では、これまでの調査で得られたデータを逐次整理しつつ、疑問点として残っていた事柄の確認も行った。それは、1）調査村の中の貧困世帯（中層農世帯以下）がどのように高等教育の学費

を捻出しているのか、2) 集落の貧困世帯にはなぜ未亡人世帯が多いのか、3) 農産物の生産コストはいくらか、4) 集落の各世帯の血縁関係の解明と草分け的な世帯の特定、などである。1) については、中層農世帯は、家族に非農業就業者がおらずとも、様々な借入先（例えば、金貸し、宝石を担保としたローン、弟や妹からの借入、マイクロ・クレジットなど）を組み合わせることで、子弟の高等教育の学費を捻出していることがわかった。2) については、夫と死別・離別している世帯が多いが、農地を所有しておらず、そのため、低賃金の農業労働や他家での家事労働に就いていることがわかった。3) 農産物生産コストは、乳牛や雄牛などの役畜を多数所有している世帯ほど、糞尿を肥料として投入できることから、家畜を多数所有していない農家に比べ、生産費コストのうち、肥料コストを最低限に抑えていることがわかった。4) については、*Nattamai* と呼ばれる世襲の村（＝集落）長の存在を突き止めた。これまでの調査では、*Karai-karan* と呼ばれる、発言力があり村の行事などを取り仕切っている者たちだけに注目してきたが、実体はともかく、世襲の名望家が存在することがわかった。

以上のように、今回の調査では、上記の全ての疑問点に答えられる調査結果を得た。その結果、過去3年間続けてきた調査集落の姿をより鮮明に捉える事ができるようになった。

今後の展開・反省点

今回の調査結果は、2009年10月10日、アジア政経学会全国大会（法政大学）において、自由論題「南インド農村における階層構造と離村プロセス―タミルナードゥ州マドゥライ地域の事例から―」として発表し、一定の成果を得た。しかし、調査集落でこれまで蓄積しているデータは、本テーマのみならず、さまざまな切り口から分析することが可能である。今後は、ダイナミックな変動の真ただ中にある半乾燥地・タミル灌漑農村の社会経済について、より総合的な理解をめざしたい。

注

- 1) Census of India 2001, Series 33 Tamil Nadu, District Census Handbook, Part-B Madurai District, Village and Town-wise Primary Census Abstract, Government of India (GOI)（1981年、1991年版も参照）
- 2) 農村雇用創出プログラム（= National Rural Employment Generation Scheme, NREGS）のこと。調査村では、新たな貯水用溜池を掘り進めるプログラムが実施中である。本プログラムは、参加者1人あたり年間100日の雇用を約束するものである。賃金は、日給でRs.80である。



1. 調査村の田植えの様子（09年9月、S村）



2. 調査村の NREGS²⁾ プログラム参加者たち（09年9月、S村）



3. 家畜の糞尿（肥料用）の買い取り（09年10月、S村）